

2025 年 6 月 25 日

アルー株式会社

(コード番号：7043 東証グロース)

～お悩み解決！若手の離職防止を考える～

第2回「同じ」と思っていたことが実は「違っていた？」

■「違い」とは何か？

第1回で自分から見て理解できない人に会ったとき、良い・悪いで判断する前に「違いに気づく」ことが大切であるとお伝えしました。

ただ一口に「違い」といっても様々な違いがあり、年齢や性別といった「目に見える違い」もあれば、物事好き嫌いといった「目に見えない違い」もあります。

中でも気づくのが特に難しい違いがあります。それが「見えている世界の違い」です。

一つわかりやすい例を挙げてみたいと思います。

皆さんは「馬刺し」や「イカの生け作り」を見たとき、何に見えるでしょうか？

好き嫌いとはかく、おそらく日本で生まれ育った人なら「食べ物」に見えると思います。人によっては「ご馳走」に見えるかもしれません。

ところが馬やイカを食べる文化がなく、そもそも生食文化すらないような国の人から見ると「食べ物」ではなく「気持ち悪い物体」にしか見えません。

逆もしかりで、日本で生まれ育った私たちから見て「ゲテモノ」に見えるものが、相手には「美味しいご馳走」に見えることもあります。

このように全く同じものを見ていても同じものには見えない（同じ認識を共有していない）ことが「見えている世界の違い」というわけです。

■どうすれば「違い」に気づくのか

では、どうすればこの目に見えない「違い」に気づくことができるのか？

一つ挙げるとすれば自分の目を過信しないことです。

人は自分の目で「黒」に見えたものは相手にも同じように「黒」に見えていると思いがちですが、自分の目には「黒」に見えたものは相手には「白」に見えるかもしれない、ということを常に意識してことがポイントです。

そうすることで、理解できない若手の言動の裏には「自分とは見えている世界が違うかもしれない」ということに気づくことができ、頭ごなしに相手を責めるようなことをしなくなります。

とはいえ、人はどうしても固定観念を通して物事を見ますので、口で言うのは簡単ですが実行するのは容易ではありません。自分の固定観念からどうすれば脱却できるか、このテーマについては次回紹介したいと思います。

アルー株式会社 人材育成コンサルタント 孔令愚



※本内容は、「SHINKIN 情報玉手箱」(発行：東京都信用金庫協会 編集：近代セールス社)の令和6年5月号に掲載されたものです。本内容の一部または全部を許諾なく無断で複写・複製、磁気媒体・光ディスクへ入力等を行うことを禁じます。

■アルー株式会社について

アルー株式会社は、「夢が溢れる世界のために、人のあらゆる可能性を切り拓きます — all the possibilities —」という Missionのもと、『育成の成果にこだわる』ことをテーマに、人材育成支援事業を行っています。新入社員から経営者層までの幅広いレイヤーに対する階層別研修の実施をはじめ、グローバル人材や DX 人材の育成などのテーマ別教育プログラムの提供、さらにはラーニングマネジメントシステム「etudes」を用いた e ラーニングの提供などを通して、組織や個人の成長を人材育成の側面から支援しています。顧客ごとに個別最適化されたソリューションの提案および実施によって顧客企業の多様な課題を解決することを目指し、グループ全体で事業に取り組んでいます。

<https://www.alue.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

- ・アルー株式会社 コーポレート部
- ・ホームページお問い合わせフォーム

Tel 03-6268-9791

<https://mkt.alue.co.jp/l/882713/2021-03-18/xjpp>